

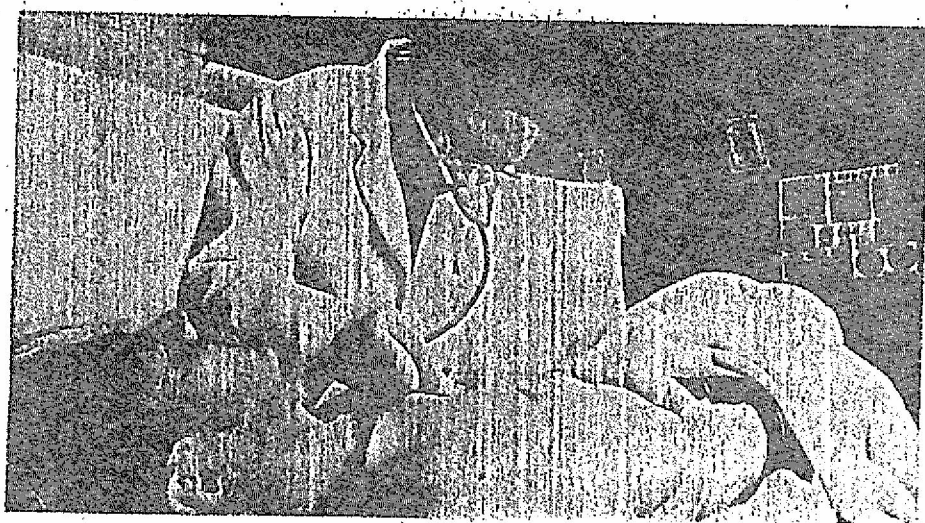
# 慢性萎縮性胃炎は老化のひとつ

おいしいものが出てくると、食欲が振ったたり、酒も弱くなったりはシモンで、その可能性が強いのは慢性萎縮性胃炎(じまんけんせい)だ。この病気のなまは、中年層からとくに増加傾向をみせている。

## 前がん症状の証拠はない

### 胃粘膜に悪い食生活避ける

慢性胃炎といふのは欧米に比べ日本に多い。胃の組織を顕微鏡で見ると、がんや潰瘍(からやまし)などの病変が見られない粘膜炎の変化をこの病変をいふ。慢性



萎縮性胃炎はそのひとつだ。その顕微鏡の検査で慢性萎縮性胃炎(じまんけんせい)「肥厚性」は年齢とともに増加する。萎縮性(じまんけんせい)は年齢とともに増加する。

胃は食べ物を取り込むところ。そのために、胃は食べ物を取り込む。胃は食べ物を取り込む。胃は食べ物を取り込む。

秋の味覚の季節なのに食欲不振だったり、酒も弱くなったりは慢性萎縮性胃炎(じまんけんせい)だ。秋の味覚の季節なのに食欲不振だったり、酒も弱くなったりは慢性萎縮性胃炎(じまんけんせい)だ。

の粘膜炎は破壊・再生されている。ところが、この再生がうまくいかないと慢性萎縮性胃炎(じまんけんせい)になる。

胃がんとの関係は発病頻度が高い。しかし、あまり神経質になるのは考えものだ。クニクスすれば、それだけストレスを助長してしまふ。その面を注意したいのは胃がんとの関係だ。統計によると慢性萎縮性胃炎(じまんけんせい)からの発病頻度が高くなっている。それだけに気にならざるを得ないが、慢性萎縮性胃炎(じまんけんせい)が前がん症状である証拠はない。おそらく年齢的に異なるから、胃がんの発病頻度となるのだから。

あまの気(じまんけんせい)はな。また薬を服用する必要もないことを知っておく。まず診断は胃内視鏡と胃生検で行われる。